

自然観察会報告  
袋井市宇刈化石観察会  
柴 正博



宇刈里公園で地層を観察



袋井市大日で大日層の化石を探す

自然史しずおか 37号で延原さんによって紹介された、今年5月に完成した宇刈里山公園を中心に、袋井市大日から掛川市飛鳥にかけて、掛川層群の大日層の貝化石層の見学を10月7日(日)に行いました。参加者は17名で、家族で参加された一般の方もおられました。すがすがしい秋晴れの中、化石の地層をめぐり楽しい一日でした。

宇刈里山公園には、観察用に保全された地層断面の露頭があり、延原さんによる露頭と化石の詳しい説明がされている案内板が設置されていました。この露頭は主に砂層からなり、下部には貝化石が含まれています。また、嵐などの暴浪時に水深20～70mの海底で形成される波長の長いハンモッキー斜交層理や断層が観察されます。

宇刈里山公園の芝生広場では、掛川市遊家から運んだ貝化石が固まった岩石ブロックが置いてあり、その前で約200万年前に暖かく浅い海にすんでいた貝類の種類や生息環境について、みんなで想像しました。

宇刈里山公園でお昼をとり、ゆっくりしたあと、その北側の大日の露頭を見学して、化石採集を行いました。大日は掛川層群の大日層の名前のついたところで、砂層の中に礫と混在した貝化石の密集層が見られます。みなさん、礫層から貝化石を取り出すことには苦労してしまし



掛川市飛鳥の地層の前で記念撮影

たが、足元に意外ときれいな貝化石がたくさん落ちていたので、それを拾ってお土産に持ってかえていました。

そのあと、掛川市本郷や遊家、飛鳥などで大日層の砂層とそれに含まれる貝化石層を見学して、見学会を終了して解散しました。

掛川層群の大日層は、約200万年前に海面が上昇したときに、現在の御前崎の海岸のような太平洋に面した波ある海岸から沖合の浅い海に堆積した地層です。大日層に含まれる貝化石の密集層は、海面の上昇とその一時的な停滞が何度か繰り返して、掛川市側から袋井市へ、東から西に海岸線が移動していく中で、それぞれの時期に海岸から沖合にかけての海底に堆積しました。この化石観察会では、そのような昔の海のようにすをたどりながら、地層を見学しました。